

ただいま、土浦。

第1班 川村竜之介／関根崇人／高島遼史／根元拓哉／星知世

T A 菴木嶺

1. 「ただいま、土浦」とは

私達の班のタイトルの「ただいま、土浦。」とは、私たちが土浦に対して持った「暗い」「活力がない」というイメージを変えるべく打ち出したコンセプトである。土浦で育った子供が大人になって子育てをする際に土浦に戻ってくる、「ただいま」の言葉の温かみを伝えるものである。

人口の将来予測をコーホート法を用いて行ったところ、将来人口は減少し、2020年には138,332人、2030年には123,288人になるという結果になった。団塊の世代と呼ばれる年代の人々が高齢者となり、75歳以上人口が急激に上昇する一方、20歳以下の未成年人口は減少を続けるなど、少子高齢化の傾向は今後も強まっていくことが結果から読み取れる。しかしこのマスタープランにおける想定人口は、コンセプトによる施策によって若者の流出が減少することから2030年に130,000人とする。これは現在人口からは減少するものの、コーホート法による予測よりも約1万人多い数字であり、若年層の流出を大きく減少させるということから導かれた目標である。

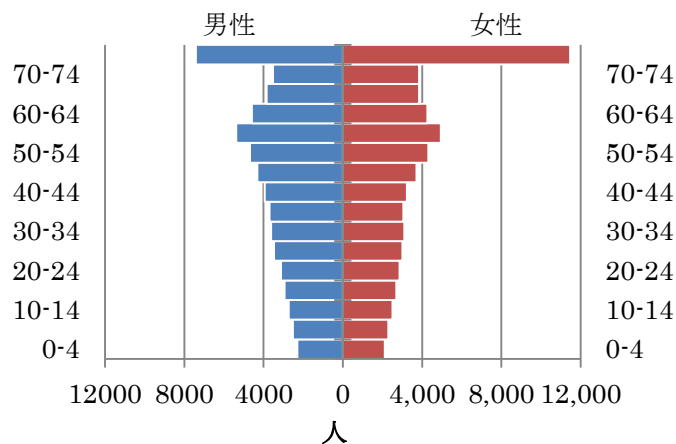


図1-1 コーホート法による土浦市2030年人口ピラミッド

2. 土浦市の概要・現状分析

2.1 概要

土浦市は今年で市制70周年を迎える市で、面積は122,99km²（霞ヶ浦を含む）、人口は2010年9月1日現在144,154人である。土浦市は東京から約60kmに位置し、霞ヶ浦や筑波山といった自然資源を持つほか、行政、経済、交通において茨城県南地域の要衝としての地位を保っていたが、モータリゼーションの進行や2005年につくばエクスプレスが開業した後は、特に経済面などで衰退が目立っている。

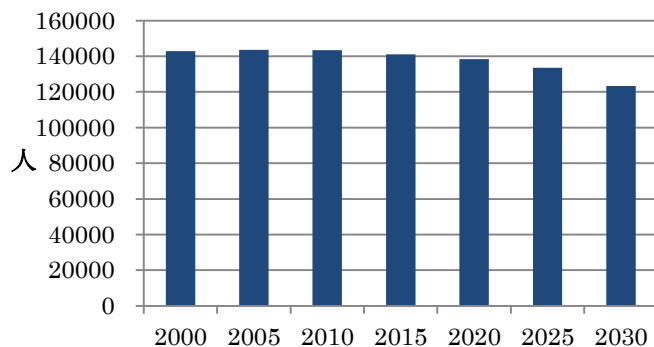


図2-1 土浦市の人口予測図

2.2 歴史・文化

1601年に松平信一が土浦城藩主となり、城下町が形成されたことが土浦の起源であるとされる。水戸街道が開通した後、城下に組み込む形で町割りが行われ、現在の街並みが形成された。この時代は城を中心に武家屋敷が連なり、水戸街道の両側に町屋が並んでいた。その後の土浦の経済的機能の高まりによって大町、川口といった新市街地が形成されていった。

常総地方の商業中心地として江戸時代より栄え、霞ヶ浦や利根川の水運によって江戸の経済と密接に結びついていた。水の都であった土浦も水路が埋められ道路となっていくが、現在もところどころにある橋の欄干や、「まちかど蔵」などの歴史的建築物など、城下町、水の都として、市の中心部には歴史の名残がいくつか存在している。

2.3 産業

2.3.1 農業

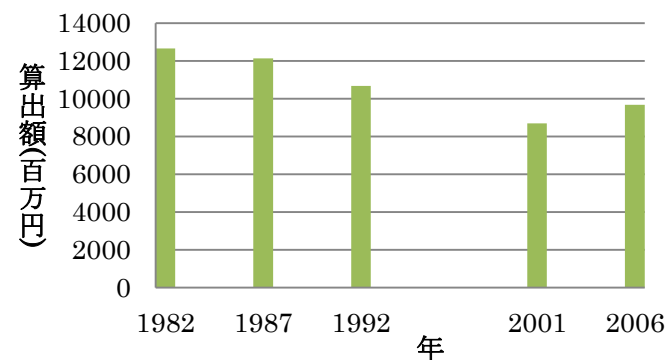


図2-2 土浦市の農業産出額の推移

農業算出額の推移を見ると、ピークであった昭和50年代後半からは徐々に減少し続けていたが、ここ数年は微増となってい

る(図-)。生産量全国1位のレンコンをはじめ、グラジオラス、アルストロメリア、菊、ヤナギなどの花きも盛んである。

2.3.2 工業

工業製品出荷額の推移を見ると、現在まで常に増加し続けている(図-)。市内にある土浦・千代田工業団地、テクノパーク土浦北、東筑波新治工業団地の影響であると考えられる。

テクノパーク土浦北、東筑波新治工業団地については現在も分譲地があるため、出荷額は今後も増え続けると考えられる。

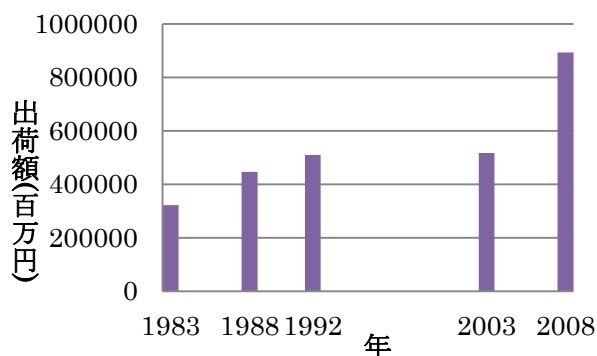


図 2-3 土浦市の工業製品出荷額の推移

2.3.3 商業

商業小売販売額の推移を見ると、ピークである平成3年前後以降は若干減少しているものの、近年は大きな変化は見られない(図-)。しかし、かつて商都として栄えた中心市街地は相次ぐ大型店の撤退やシャッター街化により非常に衰退している。一方で郊外へ出店したショッピングセンターやロードサイド店には活気があり、商業の機能が中心市街地から郊外へと移っているのではないかと考えられる。

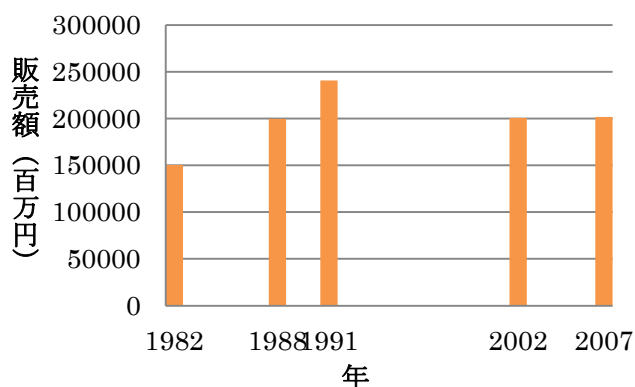


図 2-4 土浦市の商業小売販売額の推移

2.4 教育

小学校、中学校について、GISを用いて地図上にプロットし、各施設からバッファをとる作業を行った。その際バッファ距離

を小学校については2000m、中学校については3000mとした。

この結果をみると(図-)、小中学校ともに概ね市内全域をカバーしていることがわかる。これは教育という性格上、地域による格差を生むことなく施設を立地させる必要があることから、このような結果になっているのだと考えられる。

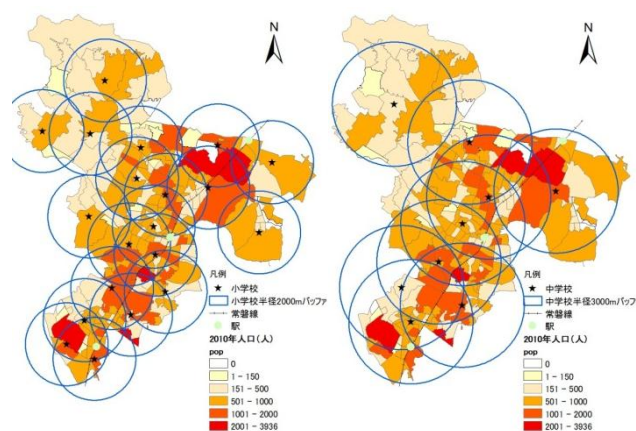


図 2-5 小学校 2000m バッファ図 図 2-6 中学校 3000m バッファ図

2.5 福祉・医療

高齢者向けの福祉施設は土浦市内に現在72施設あり、市内に満遍なく配置されている。土浦市の2008年の65歳以上人口は31,754人であり、1施設あたり65歳以上人口は約440人である。これは人口が同規模の他自治体と比較して同等の数字である(茨城県古河市:467人/施設、栃木県栃木市:425人/施設)。

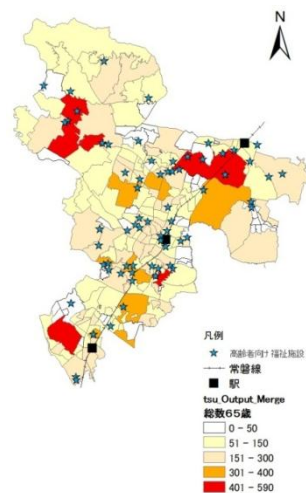


図 2-6 福祉施設のプロット図

土浦市内には病院が8件あり、診療所が181件ある。土浦駅周辺など常磐線沿線には医療施設が満遍なく立地している。また国道125号線沿いにも医療施設が立地している一方、新治地区はやや施設が少なくなっている。

表 2-1 医療施設に関する土浦市と茨城県の比較

土浦市	項目	茨城県平均
1201.6	一般病院病床数	1114.2
5.6	一般病院数	6.5
80	一般診療所	56.9
240.8	医師数	142.13

上の表 1 は人口 10 万人当たりの一般病床数, 一般病院数, 一般診療所数, 医師数を土浦市と茨城県平均とで比較したものである. 特に注目すべき点は一般診療所の数であり, 茨城県平均を大きく上回っている. こういったことから医療施設が充実していることが分かる.

2.6 公園

土浦の都市公園は 53 件あり, 都市公園は地球温暖化の防止, 生物多様性の保全, 震災時の避難地, 延焼防止, 復旧の拠点, 市民のオープンスペース, 文化活動の場として利用されている. また都市公園は, 川口運動公園でのかすみがうらマラソン, 土浦カレーフェスティバル, ウォークラリーがある. また亀城公園での土浦薪能, 春の文化祭等があり, 市民にとって必要な場所となっている.

以下の図が都市公園に 1000 メートルのバッファを表示させたものである. これを見てみると, 常磐線沿線上は概ね満遍なく都市公園が立地していることが分かる.

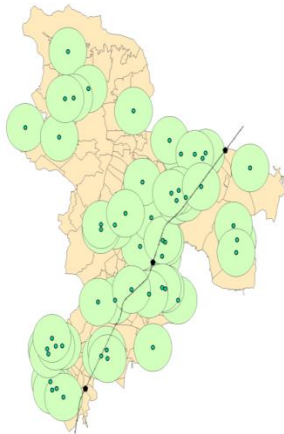


図 2-7 都市公園に対する 1000m バッファ図

2.6 交通

道路は南北に国道 6 号と常磐自動車道が走る. 東西に走る道路については, 現在 125 号のバイパスが建設中であるなど整備が不十分であり, 今後の課題であるといえる.

公共交通については, 南北に JR 常磐線が走り, 市内には荒川沖, 土浦, 神立の 3 駅が立地している. バスは土浦駅を中心につ

くばセンターや筑波山口, 阿見方面に路線が伸びているほか, 荒川沖駅, 神立駅を発着する路線がある. また土浦市コミュニティバスとして, まちづくり活性化バス「キララちゃん」が走行している. これには土浦駅を中心に 3 路線があり, 大人 100 円 子供 50 円で乗ることができるほか, 協賛店で 1000 円以上の買い物をすると地域通貨「キララ」が発行され, 無料で乗ることができる.

2.7 景観

筑波山, 霞ヶ浦など広大な自然風景が望める土浦には, その肥沃な土地にレンコン畑が広がっており, 豊かな自然を有している. 市民に対するアンケートでは, 霞ヶ浦や桜川といった水辺景観や花火大会や祭りなどの伝統・文化を感じさせる景観, 筑波山などの自然景観を魅力的であると感じている市民が多いことがわかる. 一方で駅前や住宅地に対して魅力的と感じる人は少なく, このようなものの整備が必要であるといえる.

2.8 景観

市民アンケート調査の結果から, 土浦の景観をイメージする言葉として「水辺・歴史」を挙げる割合が最も多いことがわかった. また, 魅力的な景観としても「霞ヶ浦や桜川などの水辺空間」「花火や祭りなどの伝統・文化を感じさせる景観」「筑波山や霞ヶ浦などの眺めがよい景観」といったものが市民にとって魅力的であるという結果となった. このことから, 土浦市民は自然や文化を身近に感じよう景観を大切にしているということがうかがえる.

一方で景観上の問題と認識している事象として「空き店舗」「駐車場」「耕作放棄地」が挙げられており, 市の中心部である駅前の景観の改善が必要であると考えられる.

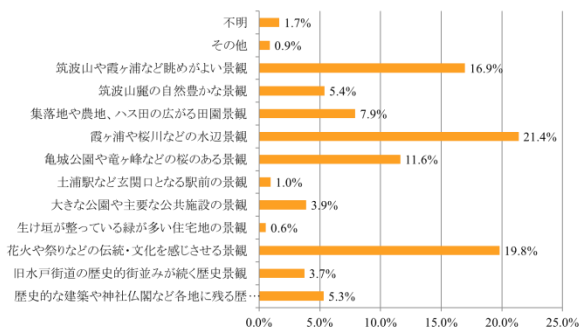


図 2-8 土浦の魅力的な景観について (市民アンケート)

3. 課題の抽出

土浦の現状をまとめると, 幼稚園や保育園は施設数や待機児童数の数などから充実していると言えるが, 分布の偏りがある.

また図書館について、施設が市内に4ヶ所しかないため、市内全域をカバーしているとは言えない。

公園については、1人当たりの都市公園面積を土浦市と茨城県の平均と比較すると土浦市が下回るという結果になり、公園が少ないことが分かる。医療施設については、施設数、医師数は充実しているが、市街地に集中してしまい行き届いていない地域があるため改善が必要である。

交通環境については、バスの路線で対応していない地区が存在する、本数が少ない等の公共交通の不便さや、歩道が極端に狭い、無いなど歩行空間の不足という問題がある。

土浦市には、霞ヶ浦や新治地区の豊かな自然などの良い景観が市民から挙げられている一方で、市街地の空き店舗や駐車場が点在している状況、また耕作放棄されている土地について問題として挙げられている。土浦市はかつての城下町、水の都としての歴史が存在するためそれを活かしていくことが重要である。

現状把握によって挙げられたメリットを活かし、デメリットを改善していくことで子育てや教育、福祉の充実した街へ、一層市民が愛着を持てる街へと近づくことができる。

4. コンセプト

土浦が抱える課題に対し、「子育て、教育、福祉」の観点から土浦を活性化させようと考えた。「ただいま、土浦。」と題したコンセプトには、「土浦で育った子供たちが、大人になって子育ての時期になるとまた土浦に帰ってきたいと思うまちに。」という意味が込められている。少子高齢化が進む中、少子化への対策、高齢者への福祉サービスは急務であると同時に、中心市街地の衰退など市が抱える課題は多岐にわたる。それらは相互に影響しあい、点の対策では課題を根本的に解決することは不可能である。私たちは人のライフステージに着目し、土浦で育った子供が就職や子育てなどを契機に土浦にまた帰ってきたいと思わせるようなまちをつくり、土浦の経済や福祉、教育などに還元していくような仕組みづくりが必要であると考えた。

5-1. 施策の例

課題に対して「改善が必要なもの」「うまく活用するもの」「新たに創造するもの」という3の方針の対策を講じていく。例を以下に示す。

「改善が必要なもの」

- ・空き店舗を利用した駅前託児所
- ・子供達が安心して歩ける駅前の整備



- ・求心力のある土浦駅前の創造

「うまく活用するもの」

- ・新治地区への移動図書館
- ・自然資源を活かした施設整備
- ・交通混雑への対処（MM 施策）
- ・ニーズにあった医療サービス

「新たに創造するもの」

- ・地域ぐるみで子供を育てる
- ・地域愛を育む課外授業（レンコン収穫体験など）

5. 今後の方向性

中間発表後は大きく以下のような項目について取り組む。

- ・先行事例の調査
- ・ヒアリング調査
- ・具体的な施策の提案
- ・実現可能性の検討

今後の方針として、まず各施策における先行事例の調査を行う。事例を元により現実的な施策の検討と、市民へのヒアリング調査を実施する。そしてそれらの結果を踏まえコンセプトの実現に向けて具体的な施策を提示し、その実現可能性を分析し考察を加えていく。

6. 参考文献

- ・土浦市：土浦市公式ホームページ
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/>
- ・茨城県：茨城県統計年鑑
- ・土浦市：平成21年 統計つちうら
- ・NTT番号情報株式会社：iタウンページ
<http://itp.ne.jp/>
- ・病院検索サイト：<http://www.hospi.jp/>
- ・patmap：<http://patmap.jp/CITY/>
- ・古河市：古河市公式ホームページ
<http://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/>
- ・栃木市：栃木市公式ホームページ
<http://www.city.tochigi.lg.jp/>
- ・平成20年茨城県医療施設調査・病院報告の概況
http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/koso/statistics/hospital/download/2008/all_files.pdf
- ・土浦市地域公共交通総合連携計画
- ・国土交通政策研究所報 第37号（2010）
- ・土浦市都市整備部：土浦市景観まちづくりアンケート（2009）